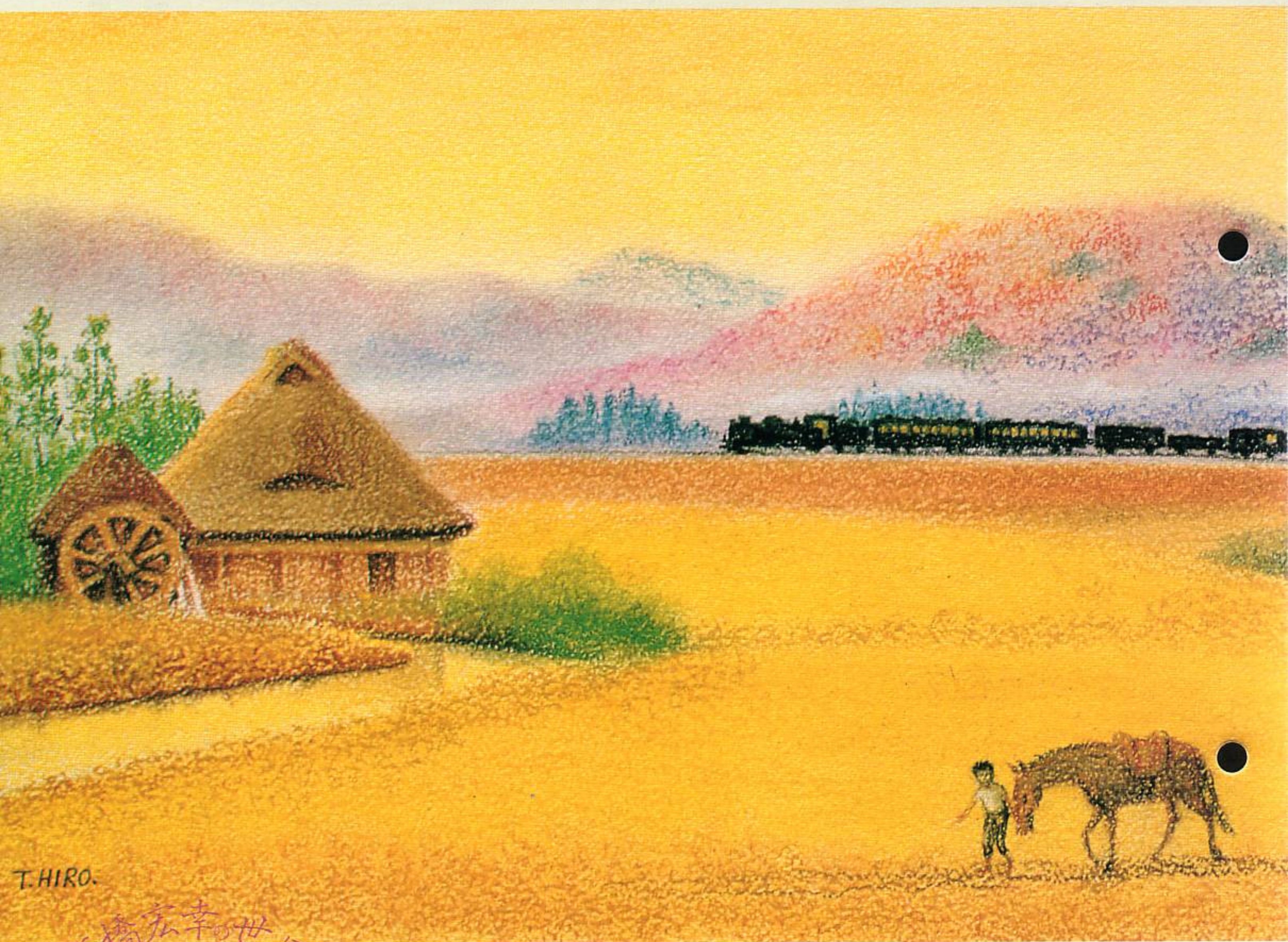




7
町出身・絵本作家



一九二三年老方に生まれる。長年児童図書の編集にたずさわりのち創作活動にはいる。文・絵・実技指導と幅広く活躍。「チロヌップのきつね」など数多くが海外でも出版。

昭和三十八年から編集プロダクションの経営者になった私は、広告デザインや、コロムビアのレコードジャケット・イラストなども手がけた。都はるみがデビューしたところである。美空ひばりシリーズを何本もまとめたことや、ジャリタレのはしり、川田正子姉妹との長いコンビは得がたい経験となった。私の描画手法は、これら童謡レコードのイラストを、何百本とこなしたことによる。人生、何が転機となるかわからないもの。コロムビアとの出会いも、私の今日と無縁ではない。

（高橋・記）

童画「郷愁」

宮田東峰は、わが国ハーモニカバンドの草分けである。その楽団による「日本の唱歌」のレコードジャケット・イラストを、コロムビアから依頼されたとき、私のイメージは、横荘線の汽車の息づかいがきこえる古里の田園風景であった。昭和初期のインフレ時代、ブツカトキ、ブツカトキ（物価騰貴）と、苦しい煙をはきながら坂を上る豆機関車の頑張りが、いまでも脳裏にうかぶ。

九月号のような意表を衝く構図ではないが、童謡唱歌の心に通じる情感を、よく表現できた、宮田先生からもほめられた。

昭和三十八年から編集プロダクションの経営者になった私は、広告デザインや、コロムビアのレコードジャケット・イラストなども手がけた。都はるみがデビューしたところである。美空ひばりシリーズを何本もまとめたことや、ジャリタレのはしり、川田正子姉妹との長いコンビは得がたい経験となった。私の描画手法は、これら童謡レコードのイラストを、何百本とこなしたことによる。人生、何が転機となるかわからないもの。コロムビアとの出会いも、私の今日と無縁ではない。

山村農業の活路を考える

2・ひがしゆり



300人を超す農家が参加した「山村に生きる農業シンポジウム」（9月16日・有鄰館）

パネリスト

- 山田 晴義氏（東北工業大学教授）
- 佐々木清勝氏（由利農林事務所長）
- 小守 秀夫氏（生活協同組合連合会ユーコープ事業連合常務理事ほか）
- 丸山 伸氏（東由利町良質米生産技術指導員ほか）
- 金子 拓雄氏（東由利農協青年部副部長ほか）
- 司会・樋口 淳一氏（NHK秋田放送局チーフアナウンサー）

いま町では、二十一世紀の町の農業を見据えた「東由利町農業振興大綱」の策定を急いでいます。その一手法として九月十六日、有鄰館で「山村に生きる農業シンポジウム」を開催しました。これからの農業振興の糸口を探るべく、会場には三百人を超す農家が集まり、佐藤秀一氏（秋田県農協五連会長）の基調講演とパネラー五人による「フォーラム」に聞き入りました。今号では、「フォーラム」の模様を要約して紙上で再現しました。パネラーの提言をもとに、これからの町の農業について考えていただきたいと思います。

「就農者がいない 耕地はだれが耕す」

司会 農業生産額の三十七％は、東由利町のような農山村が背負っています。しかし、平地の農地に比べて農山村の所得率は七十％でしかありません。そして、高齢化や過疎のしわ寄せが一番早く来るのが農山村であり、東由利町もそのひとつであ

ります。

そうした中でも、東由利町はこれからも農業を基本に生きていくことを確認しています。しかし、「農業だけでは生き残れないので、ほかの産業と併設する形で生きていきたいんだ」というのが、畠山町長のお話でした。

子どもたちが二十一世紀になってもこの町で生きていくためにはどうしたらいいのか……。さあ、それではこのフォーラ

ムをはじめたいと思います。

まず、その入り口として、この町で農業を続けている金子さんに課題等を提言していただきます。

金子 私は稲作が二・五畝、畑作が一・五畝、そして養豚で母豚十頭、フランス鴨年間約一千羽の生産に励んでいます。労働力は三人ぐらいですが、冬を除けば毎日が多忙の連続です。父が高齢となり、畑作などは特に手がかかることから、労働

力不足で経営内容の変更を迫られています。現に、労働力の確保に回っても、ほとんど手の空いている方はいません。これは私ばかりの問題でなく、五年、十年後の東由利町の深刻な問題であろうと思います。そして、二、三年先に小作の依頼を受けている実態などからも、農地の流動化はますます進むと思います。

もうひとつは、農家に後継者はいませんが、就農者がいないということ。ほとんどが勤め人で、朝夕でさえ若い人の姿は見えなくなりました。

この東由利町の耕地を一体だれが耕していくのか……現状からは大きな不安を感じます。

「食」と「環境」が 農村の武器

司会 高齢化、労働力の確保、さらには後継者の問題など、これらは全国どこでも抱えている問題なんです、それではパネ

ラーの皆さんに課題等を話していただきたいと思っています。

山田 津山町の「もくもくランド」は私が設計したものです。が、あそここのポイントは地域資源の徹底的な見直しです。いまでは間伐材だけで四億円の産業を生んでいます。が、「もくもくランド」というものを交流拠点として、そこから町をアピールし、それから交流し経済効果に置き換えたのです。

歴史的に持って来たいような資源を見直しながら、それをフルに活用していくと、単に一次産品で売っていくだけでなく、それを材料に交流の資源にもなり、第三次産業にも結びつくのです。

農村の資源は「食」と「環境」です。それを武器にしながら、交流と交換をしていく……その交流と交換が何なのかを、しっかり突き詰めていく必要があると思います。

それからもうひとつは、地域イメージを育てることです。「東由利町はとていいところ

だ」というイメージが出て、はじめて他と違った独自性が出るわけですから、そのイメージを何にするか、何にこだわり地域づくりをしていくかを、みんなで話し合う必要があるだろうと思います。

佐々木 東由利町は専業と二種兼業農家が少なく、一種兼業農家は他の地域に比べて多い状況にあります。このことは、まだ農業に希望を持っている階層が非常に多いという、ひとつの特質ではないかという気がします。

農業粗生産額は昭和六十二年で二十八億一千五百万円です。このうち米は約五十九億で、由利管内平均より十ポイント低くなっています。逆に畜産は二十五億で、管内平均より七ポイント高くなっていることなどから、米と和牛の複合経営が非常に進んでいるということがいえます。また、和牛の多頭化が進んでおり、特に六頭以上の多頭飼育農家が三十億と全県平均を大きく上回っています。飼育総数でも羽後町に次いで多く、この地

域の今後の進むべき道がこの辺にあるのではないかと見ているところ。課題としては、子牛市場の好況などの反映もあって、繁殖牛が多く肥育牛が少ない状況にあります。ですから、稲作プラス畜産という考え方を、ひと工夫する必要があるような気がします。

まず「足もと」を 徹底的に見直せ!

元を徹底して洗い出し、弱点を利点に切り替えられる可能性の有無を徹底的に探ることがポイントだと思っています。

丸山 私の町では、若者が一端町からいなくなったのですが、最近どんどん戻って来ています。どうしてこんな現象が起きているのかは分かりませんが、人から使われなくてもいいということ。で勤めをやめ、転作田にいろいろなものを作り始めた人もいます。よう、メロンを作ったり、今では稲よりも収益を上げたという人が何人も出ています。

また高齢者対策としては、自分たちの生産組織の軽作業に、高齢者を給料制で雇うという形式をとっており、それをヒントに回りでも少しずつ増えている傾向にあります。

司会 ありがとうございます。またパネラーの方々からさまざまな課題や提言をいただきましたが、それらをどう生かしていくのか、金子さんから提言をお願いします。

(裏面へ続く)



山田 晴義氏



佐々木清勝氏



小守 秀夫氏



丸山 伸氏



金子 拓雄氏



樋口 淳一氏

(前ページから)

金子 労働力不足の問題は、やはり機械でカバーし、しかも共同利用によってコスト減を図っていかねばならないと思います。

また東由利町は有機肥料も豊富ですし、この特徴を生かしながら新しい作物を検討していかなければならないと思っています。

それから、後継者が育たないのは親の考え方、進め方に責任があると思います。これからの時代は、農業者は医者よりも貴重な存在になると私は確信しています。親は息子に、苦勞ばかりでなく経営者としての喜びを教え、アドバイスしてほしいものと思います。

失敗を恐れず 何かをやる

司会 それでは後継者の問題について話を進めたいと思いますが、山田さんはどのように考えていますか。

山田 農業は、やはりカッコよくて魅力的で楽しいという状況を作り出さないとけないと思います。そして学校教育の中にもそうしたものをキッチンと生かしてもらい、子どもの時からそういう感覚を持つ育て方をし

ないといけないだろうと思っています。そのためには皆さん自身が農村の良さを知り、「食」と「環境」が武器なんだという意識を持っていく必要があるかと思っています。

それから、「若いうちは都会に出してもいい、ただし帰って来れる条件を町で用意してあげよう」という「ライフサイクルシステム」を作ってあげる必要があるかと思っています。農協とか行政とかが、第三セクターを作って、そうした管理会社、管理システムを作るべきだと思います。

司会 それでは丸山さん。自分たちが組織を作る中から解決策を見出していったという話しだったんですが、具体的にお聞きしたいんですが。

丸山 何か仕掛けていくと、次から次へとアイデアが出てくる。ひとつでもいいから、失敗を恐れずに何かをやるということが、この地域に必要な、ということを感じています。

これだと思ふものはなかなか見つからないと思いますが、でも「まず行動を起こしてみよう」という気力が必要だと感じています。

司会 丸山さん、失敗を恐れずということですが、今までの経験から、その時にどうしたか

ということなんですが……

丸山 庄内柿の出荷で失敗がありました。その失敗から新しいアイデアが生まれ、逆に大成功しました。

失敗しても落ち込まない、むしろ、それを肥やしにしてしまおう、”したたかさ”が必要な気がします。

広葉樹資源活かし 産業の展開を

司会 野菜の生産は高齢者の雇用にもつながるのではないかと提言もありました。その辺、野菜を売っている立場から、小守さんご提言いただけますか。

小守 Oしが転職して花づくりははじめる例なども出て来ているようですから、若者に魅力があるということと、一方で高齢者でもやれるという仕事という面を、もっと突っ込んで整理していくと答えが出てきそうな感じがします。

司会 私は、東由利町から空港まで一時間ちょっとというところで、都市近郊型の農業になり得るのではないかと、そういう感じがしました。そのひとつのキーポイントが野菜……。何を植えるか、議論が生まれてきそうな気がします。

それでは、佐々木さんからご提言をいただけないでしょうか。佐々木 後継者を確保していくために、行政に求められるものがあります。ひとつは後継者をどういう形で誘導していくか、後継者が残るような地域をどう作るか、いわゆる農業基盤をどう作っていくか。もうひとつは家庭教育の問題です。そこで私は、農業基盤の確立



5人のパネリストが明日の農業に提言

「農協」について もっと議論を!

家庭教育の問題では、農業の暗い話をしないで、もっと明るい話を後継者にしてほしいものと思います。

司会 具体的な提言などが出ているわけですが、ここで会場の皆さんからご発言いただきました。と思います。





シンポジウムに集まった300人余りの農家

佐藤豊さん（八日町） 有機農

業のメリットは分かっているけど、資材コストや人出不足などの障害から、なかなか取り組みめないのが実情です。これらの解決策として、昔ながらの作業の互助方式を取り入れるというの、ひとつの方法ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

小守 「有機」の定義はなく、日本では言葉だけが踊っているようです。ですから、東由利町独自の定義づけをして取り組んでいくのも、ひとつの方法だと思います。そのためには、互助組織である農協が何のためにあるのかということも、もう一度議論した方がいいのではないのでしょうか。

農業は自然を相手にしていますから、技術も大事ですが、その土地でなければ見つけれない技術もあるはず。ぜひ大いに議論し、展望を見出してほしいと思いますし、われわれも大いにバックアップしたいと思っています。

司会 ほかにどなたか……

小松忠孝さん（山崎） 共同化の良さは分かっているけど、なかなか進んでいません。そのことについてうかがいたいと思います。

佐々木 共同は合理的でいいのですが、それには、いかにして「個」を抑えるかだと思います。それに、やはりもっとコスト感覚を持つ必要があると思います。したがって、農業の記帳をしていただければ答えが出てくるのではないのでしょうか。

司会 最近では、新潟と秋田の農家が気候差を利用して農機具を交換するという動きもあるようです。その点、丸山さんの組織ではそうした問題は起きていないんですか。

丸山 比較的に規模が大きいので、これまではなかったのですが、しかし、これからは低コストを第一条件に考えていかなければならないと思います。

山田 いままでは共同というと同種集団でした。しかしこれ



からは、異種農協などが提携することによって新しい道が開けてくるような気がします。

持った消費情報を交換でき、また付加価値なども生まれてくるし、違った層とのネットワークが必要かな、と考えているところで

基本は人材づくり 体を張れる行政に

司会 最後に、どうやったら人づくりが出来るか、活力が生まれるのかを、パネラーの方に一言ずつご提言をお願いします。

金子 発想の転換を図るためにも、家から離れ先進地で学ぶということが必要だと思います。その点がこの町で不足なのではないでしょうか。

自分たちもそうした考えでフランスを始まりましたが、いまのところ順調にいらっています。まず行動してみることが成功への道のような気がしますし、や

る気さえあれば道が開けてくるような気がします。

丸山 イメージづくりも大事ですが、中身が伴わないと一時的なものに終わってしまうので、たったひとつでもいいから自信を持って進められるものがほしいような気がします。

小守 農協あるいは生産者が、流通や消費をあまり考えていない気がします。生産から消費に至るまで自分たちの生産物がどんな構造の中に置かれているのか、そうした情報に取り込んでいける人材づくりが必要だと思います。

佐々木 やはり人材づくりという点で、もっとも他へ出た方がいいと思います。問題は、その人たちが帰ってきた時の受け皿が必要なのであって、それがきちんとしていれば、出ていった人たちは必ず帰ってくると思います。

山田 いままでの行政は、計画まではやるが、自分ではやりません。これからの行政は、評論家的な存在ではなく、

自分が体を張ってやる、そんな組織づくりが必要だと思います。これまでは押し付けられてやってきたという感覚があり、住民の行政への不信感は強かったようです。これからは、不信感を作り出す組織を作らないでほしいし、お互いに情報を交換し、交流していける関係の人たちで人材づくりが必要であると思っています。

司会 何にしても、基になるのは人づくりです。人づくりはとても難しいが、しかし促成栽培はしたくないものです。長い時間をかけ、じっくりとやるものだと思います。

さまざまなご提言をいただきました。短い時間でしたが、これを何かのきっかけとして、東由利町の二十一世紀の農業、あるいは町づくりを目指していただきたいと思います。

パネラーの皆さん、どうもありがとうございました。

ビデオテープ貸します

このシンポジウムの模様は、ビデオテープに録画、カセットテープに録音をしています。希望者には貸し出します。役場産業経済課または総務課広報担当にお申し出ください。

カメラトピックス

町のわだい

初心者多く、「反則！」の声鳴り響く



7チームが参加した第1回レディスゲートボール大会

「感動の輪をひろげる心の交流会」が九月四日健康増進センターで開かれました。

これは心の豊かな町民性を育てようと町教育委員会が五年前から開いているもので、今年も町内の小・中学生の代表八人が、心に残る人との出会いや日常生活で深く感銘を受けた出来事などを、さわやかに発表、会場に集まった五百人余りの聴衆の胸を打ちました。

また、第二部では第三十二回全日本吹奏楽コンクール秋田県大会で「金賞」に輝いた、東由利中学校吹奏楽部の演奏を、第三部では小松音楽兄弟作曲の歌を鑑賞し、さらに感動の輪を広げ合いました。

九月二日、第一回レディスゲートボール大会が老方地区コミュニティグラウンドで開かれました。

参加したのはレディならぬ老人クラブなど七チーム。でも、袖山地区からは平均年齢が三十歳そこそこと思われる、これぞ「レディ」チームが出場、健闘しました。

出場者の中には初めてスティックを手にしたという人もいて、ゲームは混戦模様。初心者が多かったこの日、「反則！」の高々な声がり響いた一日となりました。

成績は①ヤクシママーズ（蔵新田）②袖山③田代福寿会



四年ぶり二度目の優勝旗を手にした本町たばこ生産組合青年部

健康増進センターで開かれた「感動の輪をひろげる心の交流会」



本町たばこ
青年部が優勝

秋田県たばこ生産組合青年部野球大会（雄和町・県立中央スポーツ公園）で、増田地区たばこ生産組合代表として出場した本町たばこ生産組合青年部がみごと優勝を果しました。本町の優勝は四年ぶり二度目です。

この大会には全県から四チームが参加。前年度優勝の鹿角チーム戦で八対〇の五回コールド、決勝の雄和町淀川チーム戦では四対三の七回さよなら勝ちでした。

献血ありがとうございます

九月十七日献血車「あかつき号」が来町し、町内二カ所でお次の方々から尊い血液をいただきました。ありがとうございます。

（敬称略・太字は四百ml献血者）

佐々木日出男	遠藤 真吉	佐藤 美華
鈴木 政雄	佐々木信幸	佐々木真由美
畑中 剛	畠山 忠志	畑山 新悟
佐藤 博敦	伊東 民雄	佐藤 勝俊
石渡 博澄	小野 利彦	小松 嘉和
梅津 栄一	佐々木良博	佐藤 英吉
石渡 恵美	佐藤 一裕	阿部 純子
阿部 弘章	小野 仁	今野 博雄
小松 修一	横山 一也	猪股 寿和
巖石 文弥	小野 佳子	伊東 健市
工藤 良	佐藤サヨ子	畠山 明
小松 信記	阿部千香子	遠藤 誠功
遠藤 晃	遠藤真理子	佐藤 一
小松 伴子	小野 千春	伊東 一夫

佐々木さんに「金色有功章」

献血回数が五十回を超えた人に贈られる日本赤十字社の「金色有功章」が、このほど佐々木雅廣さん（大琴）に贈られました。

佐々木さんは献血車が来町すると欠かさず献血しており、「これからも健康のためにも献血を続けます」と、意欲満々です。



佐々木雅廣さん

八塩いこいの森で
“無料レンタル”
します。

皆さんの家に、不用の自転車
はありませんか。
まだ乗れる自転車であれば、
どんなに古くても、サビついて
いてもかまいません。

「八塩山麓会」(長谷山光会長)
が、八塩いこいの森で、無料の
“レンタル自転車”として使わ
せていただくものです。

八塩いこいの森も、つり橋「こ
うふくの橋」ができ、ダムを一
周できるようになりました。
“紅葉の秋”。八塩いこいの
森の美しい紅葉を、訪れた人た

ちに楽しんでもらえるよう、
ご協力をお願いします。
連絡は「八塩山麓会」の、
・長谷山光 ☎ 69-2493
・渡辺秋雄 ☎ 69-2636

“不用の自転車” ゆずってください。



目黒由利福祉事務所長から祝い金を受け取る佐藤アキノさん(右)



米寿の11人に郵政大臣からメッセージと記念品が(写真右は渡辺哲治郎さん・田代)

民謡ファン500人を魅了 民謡同好会が発表会開催

町の民謡同好会が9月8日健康増進センターで「民謡民舞発表会」を開き、日ごろ鍛え上げた会員のノドや踊りを披露しました。

発表会は午後6時「本荘追分日本一」の栄冠を持つ会員、遠藤文吉さん(小倉)の歌でオープン。第1部の挑戦の部から第2部のおはこの部と、会員がプロ顔負けの歌や踊りを次々と披露し、詰め掛けた民謡ファンを魅了しました。

午後8時過ぎの観客数は500人余り。会場からは「こんなに素晴らしい民謡がただで見られるなんて」の声も聞かれるほど、会員らは優れた発表、ハッスルぶりを披露しました。



500人余りのファンを魅了した町民謡同好会の「民謡民舞発表会」(写真はビデオ・プリント)



創立30周年を祝い盛り上がる祝賀会(写真は長谷山雄悦さん提供)

町内建設技能者の結集体、東由利町建設技能組合(現会長・阿部悟)が創立三十周年を迎えました。同組合は昭和三十六年、東由利村建設労働組合として発足、同三十八年に名称を変更し今日に至っています。会員は五十三人で、技術錬磨のための講習会、労力奉仕作業などを主な活動としています。九月十五日には有鄰館で記念式典を開き功績のあった十一人を表彰、このあと祝賀会で同組合のますますの発展を誓い合いました。

町建設技能組合が30歳に

来年は100歳!

白寿の佐藤さんに知事が祝い金

町一番の長寿者、佐藤アキノさん(五海保)が9月13日に満99歳の「白寿」を迎えられ、県知事から祝い金が届けられました。祝い金は由利福祉事務所の目黒和雄所長が自宅まで届けてくれ、目黒所長の「来年は100歳ですね。今度は県知事が祝い金を持って来ますからね」の言葉に、佐藤さんはニコリと笑みをうかべ応えていました。

佐藤さんはとても元気で、郡内では3番目の長寿者です。来年100歳の誕生日も、きっと元気に迎えらるることでしょう。

米寿には郵政大臣がメッセージ

敬老の日になみ、88歳の「米寿」を迎えられた方々に郵政大臣から祝い状と記念品が贈られ、9月14日に老方郵便局の職員が各々の自宅に届けました。今年「米寿」を迎えられた方は男6、女5の11人で、ほとんどの方が元気に過ごしておられます。

町民1人当たり57万円支出

平成元年度一般会計決算

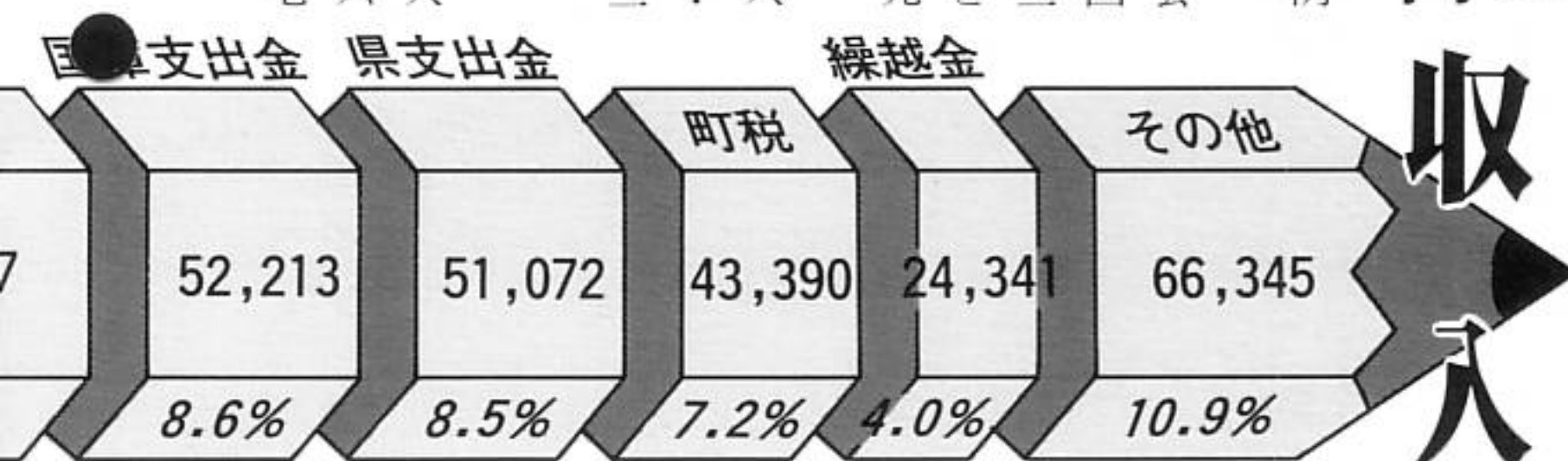


町民一人当たりの
町税は4万3千円

平成元年度の決算が九月定例
議会で認定されました。

町づくりの根幹をなす一般会計では、収入が三十五億四千四百九十四万一千円で、支出が三十三億六千八百八十四万四千円となり、差し引き一億八千三百九十七千円の黒字となりました。前年度と比べると、収入で八億五千三百七十一万円(三十一・七%)、支出で八億一千三百三十四万九千円(三十一・九%)増えました。

平成元年度の決算を町民一人当たり直すと、収入では約六十万五千円、支出では約五十七万三千円になります。



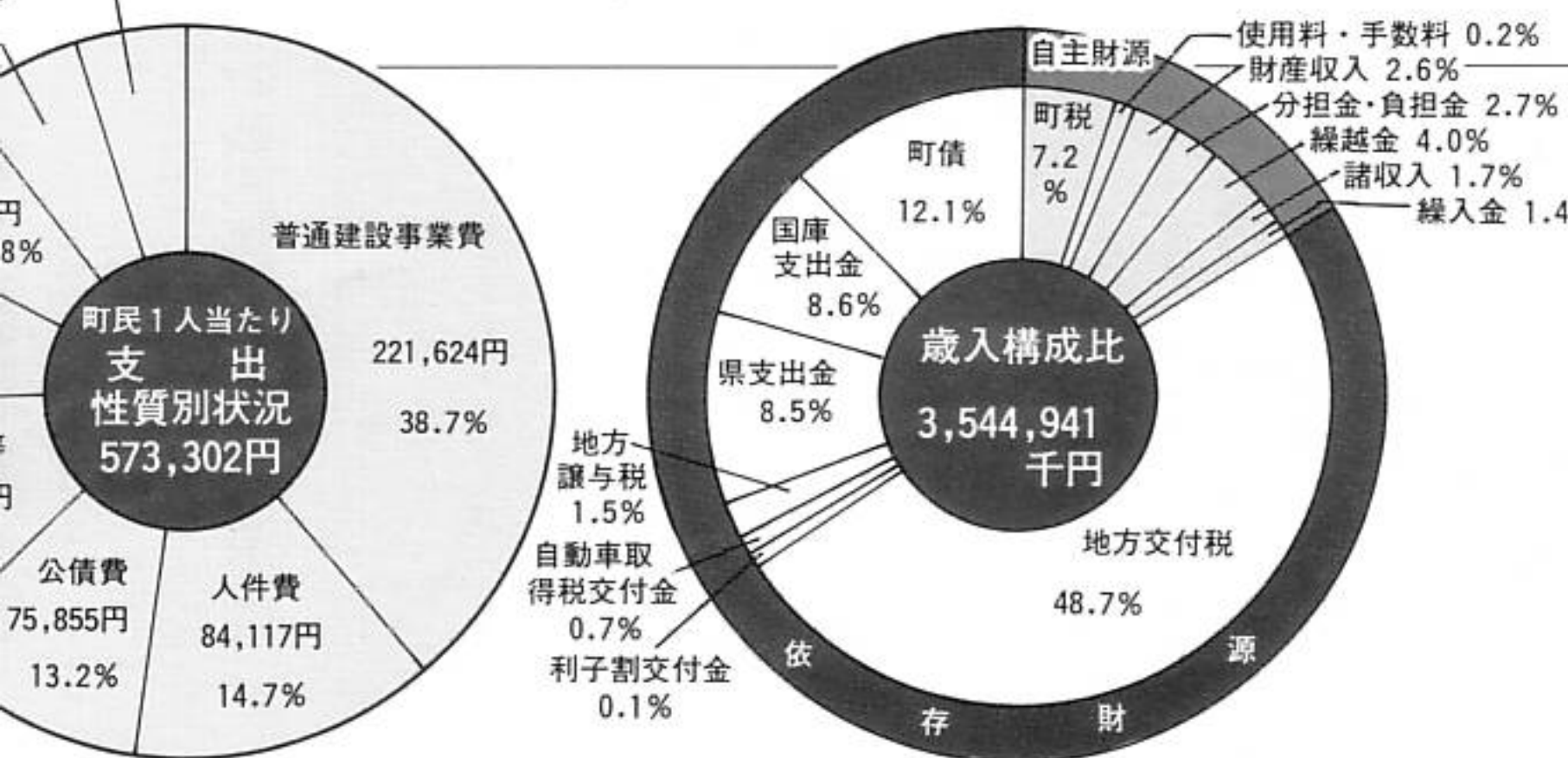
住み良い町づくりに有効に支出

さて、この膨大なお金はどのように使われたのでしょうか。

図のように、支出のトップは全体の約二十一%を占める農林水産業費です。これは主に農道や集落道などの整備、館合地区多目的共同利用施設「玉米会館」の建設などに使いました。

次に大きなものは総務費ですが、この中には基金の積立金、衆・参同日選挙費、八塩自然休暇村と台山地区の整備事業費も含まれています。

このほか、公債費は借入金金の返済、土木費は道路の新設改良、除雪など、教育費は小・中学校の運営のほか中学校の大規模改



平成元年度一般会計決算 (収入)

(単位・千円)

項目	平成元年度	昭和63年度	比較(増減率)
町税	254,439	247,422	2.8
地方譲与税	53,069	35,732	48.5
利子割交付金	3,679	1,372	168.1
自動車取得税交付金	25,188	23,909	5.3
地方交付税	1,725,354	1,354,394	27.4
交通安全対策特別交付金	975	1,170	△ 16.7
分担金及び負担金	95,542	33,030	189.3
使用料及び手数料	7,711	7,950	△ 3.0
国庫支出金	306,179	157,618	94.3
県支出金	299,486	289,302	3.5
財産収入	92,465	44,340	108.5
寄付金	50	0	100.0
繰入金	50,000	0	100.0
繰越金	142,737	197,539	360.5
諸収入	60,367	49,753	21.3
町債	427,700	247,700	72.7
合 計	3,544,941	2,691,231	31.7

(支出)

項目	平成元年度	昭和63年度	比較(増減率)
議会費	67,475	62,894	7.3
総務費	575,611	307,799	87.0
民生費	162,327	164,969	△ 1.6
衛生費	235,032	152,121	54.5
労働費	96,583	3,424	2,720.8
農林水産業費	709,473	606,744	16.9
商工費	9,411	11,066	△ 15.0
土木費	441,085	361,500	22.0
消防費	105,521	109,645	△ 3.8
教育費	298,314	245,445	21.5
災害復旧費	178,947	38,103	369.6
公債費	444,814	418,460	6.3
諸支出金	37,251	66,325	△ 43.8
予備費	—	—	—
合 計	3,361,844	2,548,495	31.9

●平成元年度主要建設事業の状況

〈補助事業〉

(単位・千円)

事業名	事業費	事業の概要
坪倉地区	66,660	改良1,240m
深山Ⅱ期地区	18,564	改良366m、舗装374m
鞍骨地区	31,310	改良422.2m
杉森地区	20,200	改良716.9m
若林地区	10,100	改良240m
館合地区多目的共同利用施設	60,903	R C構造2階建425.61㎡
中祝沢線舗装	3,136	287m
両前寺線舗装	5,136	349m
鳥井坂線改良	4,327	192m
後町線改良	11,064	330m
両前寺寺田線舗装	5,011	322m
熊高沢線舗装	5,799	388m
山崎線舗装	1,960	123m
浮蓋線改良	4,947	140m
老方下集落排水路	14,166	水路工1,039m
老方上集落排水路	4,837	水路工343m
蔵集落排水路	6,131	水路工385m
蔵新田集落排水路	1,126	水路工65m
第三期山村振興農林漁業対策事業 緑地等利用施設整備	38,926	駐車場舗装・橋梁整備・つり場・炊事場・取付道
林道整備事業 矢走林道舗装	24,639	1,207.9m
西山線改良	21,000	歩道250m
台山2号線改良	20,000	137.3m
金山線改良	52,000	橋梁14.6m、舗装96.4m
両前寺線改良	14,000	防雪柵185.4m
須郷田跡見坂線改良	65,000	用地補償
島宮線改良	14,000	防雪柵184.8m
除雪機械整備事業	23,566	除雪ロータリー車1台
中学校大規模改造事業	66,062	
消防施設整備事業	8,367	防火水槽2基、小型動力ポンプ付積載車1台
造林事業	4,673	再造林8.9ha

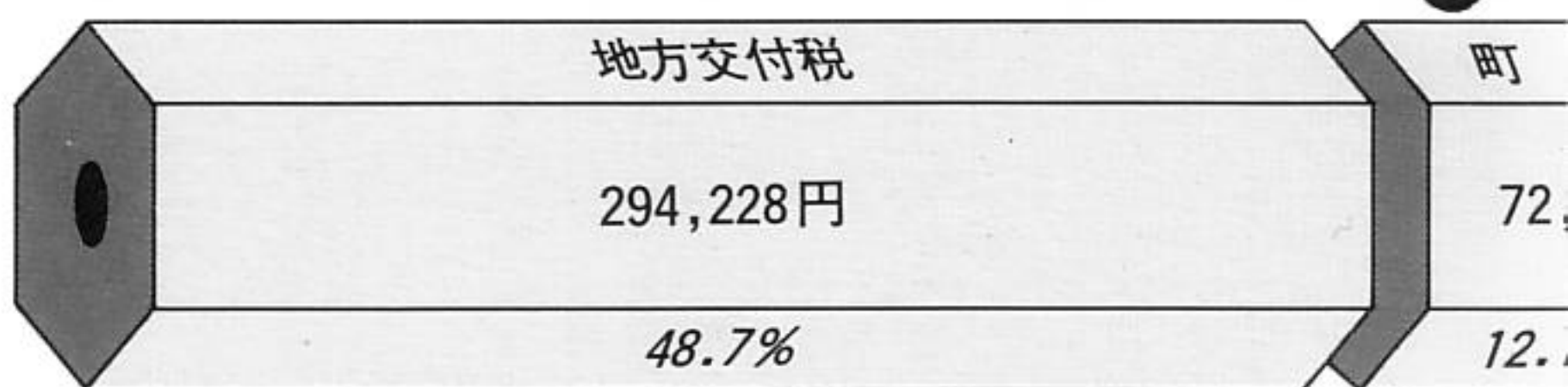
〈町単独事業〉

防犯灯設置事業	561	15基
火葬場建築事業	85,737	木造一部R C構造294.3㎡
勤労者体育施設整備事業	92,464	11,092.2㎡
林道白ヶ沢線改良	6,293	改良106.6m
造林事業	15,073	再造林160.6ha 拡大造林72.8ha
島宮線改良	4,406	局部改良229m
蔵新田線改良	10,409	改良舗装204.5m
大谷地線改良	44,987	改良449m
中学校線改良	4,171	改良160m
新町線改良	20,669	流溝321.8m
善徳線舗装	10,273	714m
喰沢線舗装	5,203	380m
教育施設等整備事業 サッカーグラウンド整備	4,120	フェンス73m
大琴小学校プール補修	2,421	塗装
橋梁整備事業	8,240	稲子沢1号橋
八塩自然休暇村整備促進事業	45,271	駐車場・あずま屋・トイレ
台山地区整備事業	14,715	駐車場・トイレ

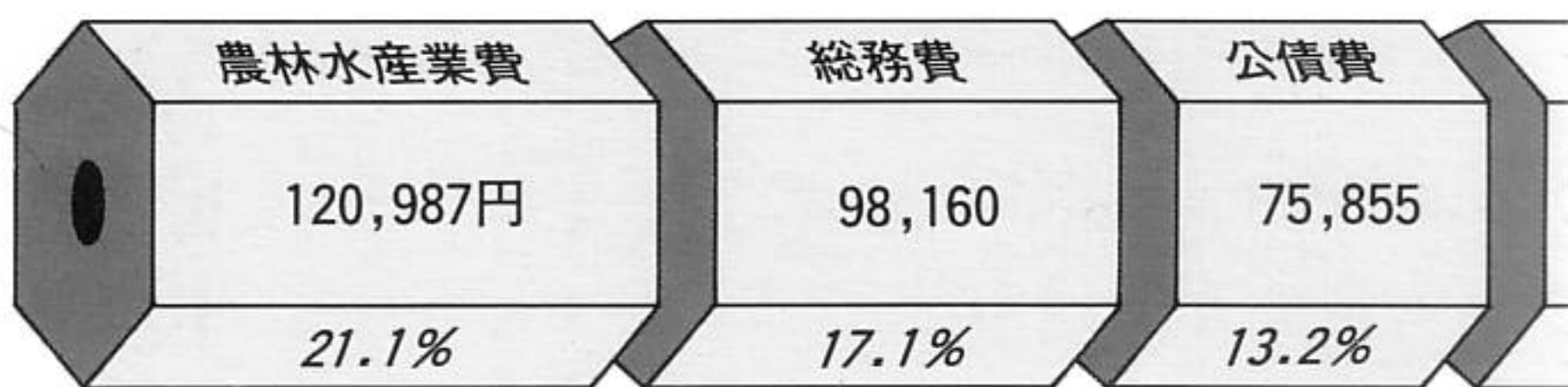
住み良い町づくりに

ところでみなさんに負担していただいた、町民税、固定資産税などの町税は、収入全体の七・二割に当たる町民一人当たり四万三千三百九十円で、前年度より千七百四十四円(約二・八割)増えました。

図のように、収入のトップは地方交付税で、公共事業の増加などが反映し町民一人当たりで前年度より約六万六千円、約二十七・四割増えました。また、町債(借入金)は約三万一千円、七十二・七割多くなりましたが、返済に支障の少ない良質の「起債」を借入れています。



※金額はいずれも町民一人当たりです。



平成元年度予算は勤労者野球場の建設など住み良い町づくりに有効に支出

造工事など、衛生費は各種検診やごみ処理のほか火葬場の建設など、民生費は社会福祉、老人・児童福祉など、労働費は勤労者野球場の建設など、いずれも住み良い町づくりに有効に使いました。

災害復旧費
30,516円

▶ 一人当たり町税の内訳

固定資産税	23,085円
町民税	15,931円
町たばこ消費税	2,536円
軽自動車税	1,264円
その他	574円

町民1人当たりの額は平成2年3月31日現在の住民基本台帳人口5,864人による。

9月定例議会

九月定例議会が九月七日から同十七日まで十一日間の会期で開かれ、町長の行政報告、一般質問のあと、平成二年度一般会計補正予算案、過疎地域振興計画案など七議案を可決、平成元年度各会計決算認定案を承認し閉会しました。

農政関係中心に畠山町長が町政の近況を報告

行政報告で畠山町長は「八塩自然休暇村構想に基づき八塩ダム周辺に青少年交流施設を建設することになっているが、九月中には着工し来春には活用できる見通しである」などと述べたあと、町政の近況について報告しました。

概要は次の通りです。

〔稲作〕八月二十九日現在、全町平均の作況指数は「九八」（農協調査）となっています。

〔航空防除〕一回目は八月四日に三百二十六畝、二回目は八月十五日に三百三十畝を実施しました。実施面積は前年度に比べ約三十畝増えました。

〔水田農業確立対策〕平成二年度の転作等目標面積は二百六十七・二畝で、これに対し二百七十一・八六畝を実施しました。目標達成率は百一・七で、転作作目は一般作物が百八十一・六七畝、そのうち飼料作物が百六十八・四五畝で全体の七十六・二を占めています。また特例作物は三十七・四九畝で、ほぼ前年と同じ作付面積となっています。他用途利用米は三十四・五三畝で前年の二十一・五畝に比べ大幅に伸びました。

〔子牛市場〕七月は上場数六十二頭で一頭平均四万一千円、八月は上場数六十二頭で一頭平均四十



四万八千円余でした。前年度に比べ値が若干下がったものの、依然として高値安定が続いています。

〔林業〕県が行う「林業活性化対策事業」に本町が選ばれました（全県で六市町）。同事業は林道を開設するもので三カ年継続事業です。この事業により宿宇寺山地区に、二千五百畝の作業道を開設する予定です。

〔消防〕第一分団に配置する予定のポンプ自動車は七月末に発注済みで、十二月下旬に納車される予定です。

〔温泉開発〕発掘に向け諸問題を

町職員採用、農業問題など二氏が町長の考えをただす

一般質問では二議員が、町職員の採用基準、農業問題などについて畠山町長の考えをただしました。

質問、答弁の一部は次の通りです。

問 町職員の採用基準等について

答 採用は地方公務員法にしたがい競争試験で行っています。一般職員は県町村会の実施の統一試験により、成績と能力判定で合格者を決定、単純労働職員は適性検査と筆記試験等で能力判定し選考採用しています。

問 町職員の職制中「事務補助員」は廃止すべきでないか

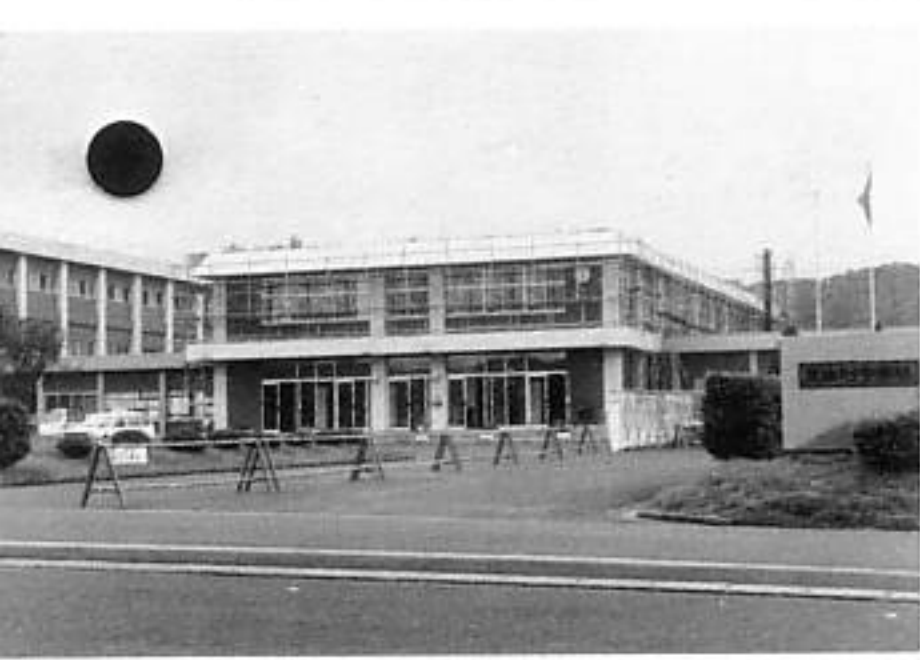
答 職制上の職名は自治体によっ

抱えており、町内各機関、町民代表による協議機関を設置する予定で人選を急いでいます。

〔東由利中学校大規模改造第二期工事〕授業等に支障なく順調に進み、十月二十日ころまでには完成する予定です。寄宿舎改修工事も予定通り進み、冬期入舎までには完成する予定です。

〔八塩小学校プール〕地域、関係者との協議が進み、平成三年度に建設する予定で今議会に調査費を計上しました。

※道路整備関係は後号の広報で紹介するため省略しました。



順調に進む東中大規模改造工事(9/25)

務員法上できません。

問 町一般職員が消防団員等の特別職を兼ねることは今後の公務員の在り方として望ましく思うが、どうか

答 消防団員としての兼務は法的には禁じられていません。しかし地方公務員としての「職務に専念する義務」が強く課せられていることや、地方公務員法の「公務以外業務等の従事制限」などからしても問題が多く、特に人事管理上、事務調整上等運営管理上からも充分検討を要すると考えます。そのような問題から、現在兼務している団体では順次これを減らし、廃止の方向であるとうかがっています。したがって、消防団組織の原点から考えても、団員補充についてはその地域の実情をよく検討しながら、努力していくべき問題であると考えています。

問 農家の所得向上にもっと積極的に取り組むべきである。

答 需要者のニーズに応え、有機・無農薬栽培が産地間競争の中で進んできました。わが町では、特に有機栽培を基盤とし畜産振興に力を入れてきました。今年は「肉用牛増頭対策奨励制度」を更に三カ年延長したほか、稲わら確保のため「自然乾燥米奨励補助金制度」を取り入れ、また「牛床改善助成制度」「繁殖牛新規飼育農家奨励制度」を新しく設けました。これらはすべて有機栽培につながる具

青少年交流施設、着工 ● 八塩いこいの森に ● 来春オープン

八塩いこいの森に、地域づくり推進事業（旧ふるさと創生事業）で「青少年交流施設」が建てられることになりました。この施設は、青少年の野外活動を中心に幅広い交流活動を促進しようと建てられるもので、九月十七日から着工、来春にオープンする予定です。

青少年交流のサロン室、休憩室のほか、管理室兼救護室、厨房、シャワー室、テラスなどが設けられます。建設場所は、八塩ダム東側の「炭焼き小屋」跡地で、現在同建物を解体し基礎工事が行われています。

本体工事は年内に完成する予定で、来年五月の「黄桜まつり」までにはオープンできる見通しです。

これが完成すると八塩自然休暇村の機能が一段と広がり、利用の増大に期待が持たれます。

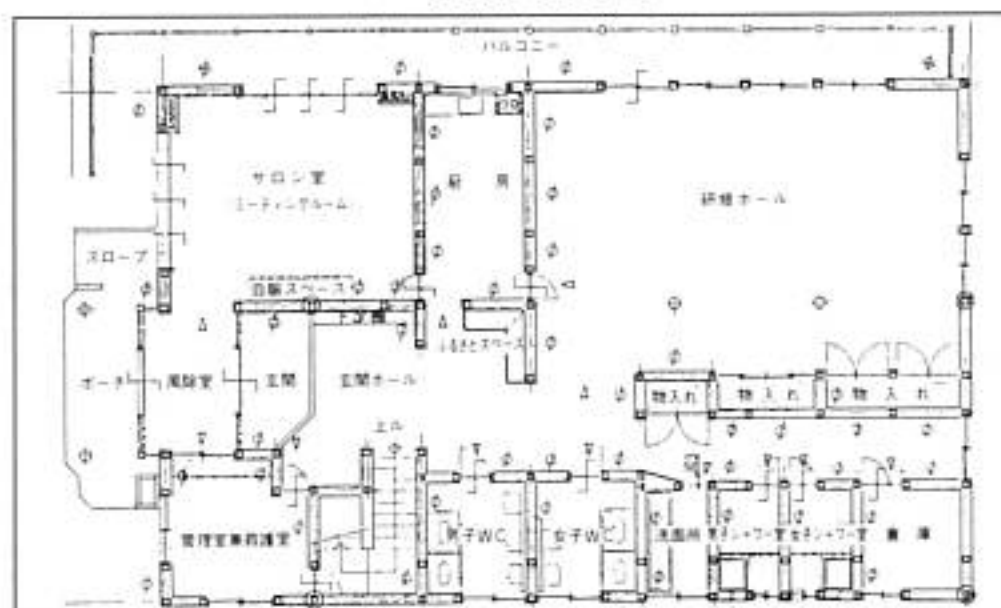
「青少年交流施設」立面図・平面図



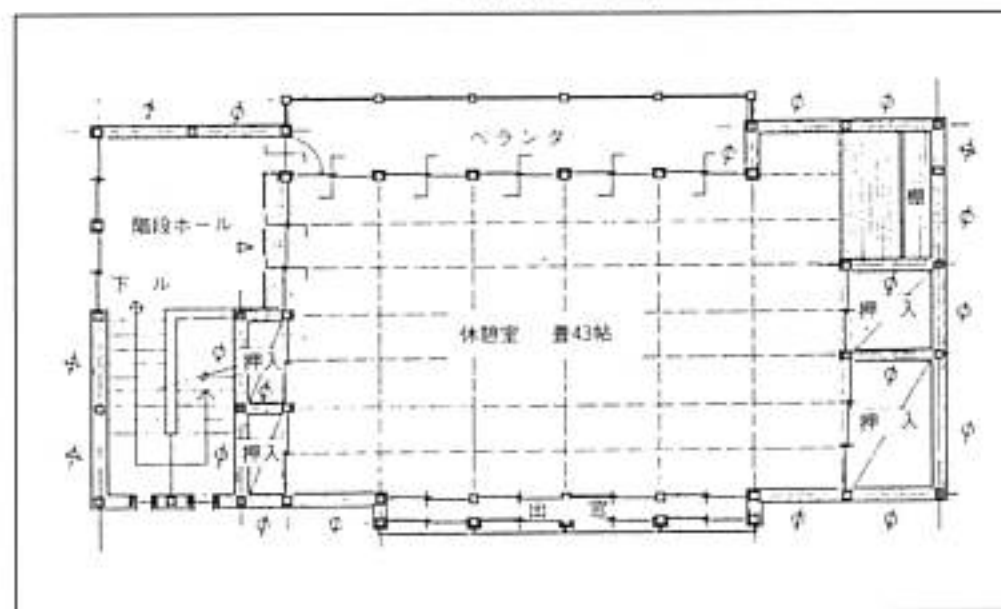
▲西側立面図



▲北側立面図



▲1階平面図



▲2階平面図

県畜産共進会

四部門で一等賞を受賞

九月四日～六日、県中央家畜市場（河辺町）で開かれた第七十九回秋田県畜産共進会で、本町から出品した牛十一頭のうち四部門で六頭が一等賞を受賞しました。同受賞牛は次の通りです。（一）は出品者（敬称略）



県畜産共進会の審査風景

- ◇ 若牛の部・24～26カ月
 - ◎ かすみ（嶽石勝男・新沢）
- ◇ 成牛の部・27～47カ月
 - ◎ ふくはな5の9（畑山藤作・土場沢）
- ◇ 繁殖雌牛群・2産以上経産牛
 - ◎ たけひめ（小野貞一・蔵新田）
 - ◎ すみよ2（太田行男・同）
 - ◎ たまひめ（阿部 勲・同）
- ◇ 以上は町和牛改良組合
 - ◎ ジャーギー種・24カ月以上
 - ◎ ウイローロマンス サニー キャンデー（畑山克司・島）

東由利の文芸

ゆりかご句会（九月会から）

河鹿鳴く峡に無口の土工小屋

鈴木徳蔵（舟木）

河鹿笛夢なき老を和ませり

遠藤トミ子（小倉）

瀬の音にかすかに聞こゆ河鹿笛

小笠原亮子（蔵新田）

祭終え徐徐に消え行く夜店の灯

佐藤正義（湯出野）

溪流にたれし釣り糸昼河鹿

鈴木要（沼）

夜のとばりおりし山里河鹿聴く

高橋ヒデ子（横渡）

綿飴に長く列なす夜店かな

小野貞子（蔵新田）

河鹿鳴く岸辺の石に腰おろす

小笠原トミ（同）

河鹿笛聞きて辿るや不動滝

菊地常作（湯出野）

古来より河鹿の美声残す峡

小松慶次郎（高戸屋）

走り根につまづき降りぬ河鹿川

小松メサ子（下小路）

揃い着て並ぶ夜店や姉妹

小松徳蔵（湯出野）

「ジャーナリストから見た東由利」を、五回にわたり掲載しています。

これは、ラジオ放送「FMあきた」の、「トーク&トーク」という番組で昨年放送されたものです。

説得に若者の情熱

◆（アナウンサー）日本の政治というのは、議会の「根回し」がないと、すぐ「議会軽視」といつて騒ぐでしょう。その点、東由利町の議会はどうかだったんですか。

◆（石川嘉明）私は、議員の方々も偉いと思っています。

畠山町長が「団地変更候補地」

を上の代、旧玉米中学校跡地に決めた「団地変更」を議会に提出したんです。もちろん、論議はあったようですが、結局、畠山町長の迫力に圧倒されたと申しましょうか、花を持たせたと申しましょうか、「町長一任」ということになったんです。おそらく、議員の方々も町長と同じような、危機感



石川嘉明氏略歴

1949年秋田魁新報社入社、文化部、社会部記者として活躍、秋田放送理事報道局長、制作局長、営業局長、解説委員長を経て1983年退社、フリージャーナリストとして現在テレビ、ラジオ、著作、講演など評論活動に活躍中。

があつたんじゃないでしょうか。

さあ、町長一任ということになって、こんどは「団地の確保」、「民有地の買収」、「手続き」へと進んだんですね。

◆その交渉はスムーズにいったんですか。

◆必ずしもスムーズとはいかなかったようですね。「農民を潰す気か」という批判も一部には出たと聞いています。畠山さんは「農民を潰さないために命をかけてやっているのに、何ということだ」と思ったと言っていました。

とにかく、批判はよいと言うん

ジャーナリストから見た東由利

シリーズ4

企業が町を活性化に

フリージャーナリスト 石川 嘉明

です。むしろ歓迎する。そこから

お互いの切磋琢磨が生まれますから、歓迎するということですよ。しかし、「自分の真意だけは理解してもらわねばならない」と思ったというんですね。このことで、町に不協和音が生まれては、元も子もなくしてしまう。不協和音のま

ま「信英グループ」を誘致すること

はできない。「ああ、来ていただいてよかった」という形で誘致することが、「信英」に対する東由利の礼儀だと信じていたんですね。

◆それでは、説得にも気合いが入ったでしょうね。

◆何年かぶり、若者のような情熱のほとばしり出るのを覚えたと言っていました。

ついに東由利町へ決まる

◆「信英グループ」の誘致に、町長の去就をかけたんですね。

それならば、「米」にプラスするものを考えなければならぬ。

◆東由利町では、大規模農業は出来ないと言ったんですね。

◆そうです。「信英グループ」

からのサラリーによって収入を高め、生活のスタイルとして、「農業」を選択するという道をとったんですね。そうすれば、先祖が残した田んぼも守って行くことが出来ると思えたわけですね。

◆なるほど。論理的ですね。ス

ジが通っている。で、住民は承知したんですね。

◆そうです。その結果「団地変

更」も決まり、東由利町では「小さい。狭い」といった登内社長の不満を解決したんです。

もちろん、重役たちのバックア

ップもあったと思いますよ。

しかし、そこまでいった背景に

は、やはり、畠山町長の誠意と、

情熱と、議会や住民の理解という

ものがあるわけです。

◆社長がOKした時には、うれ

しかったでしょうね。

◆目が眩んで来たと言っていま

した。もう、疲れがドット来たん

ではないでしょうか。それも心地

よい疲れ。もし、「元氣の出る

疲れ」というものがあれば、まさ

に、こういう時だと思っています。

（次号に続く）

十月一日、全国一斉に国勢調査が行われます。

国勢調査は、大正九年から五年ごとに行われており、調査の結果は、国や地方公共団体のほか、学術研究機関や一般の会社などにおいても広く利用されています。

調査の対象は、赤ちゃんからお年寄りまで、日本に住んでいるすべての方です。



調査員が
お宅へ回収に。



国勢調査

平成2年10月1日(月)

すでに調査員が皆様のお宅にお伺いし、調査票をお配りしているかと存じます。

調査事項は二十二項目。お

答えいただく内容は、統計以

外の目的に使用することは法

律で固く禁じられています。

ご安心の上、ありのままをご

記入ください。

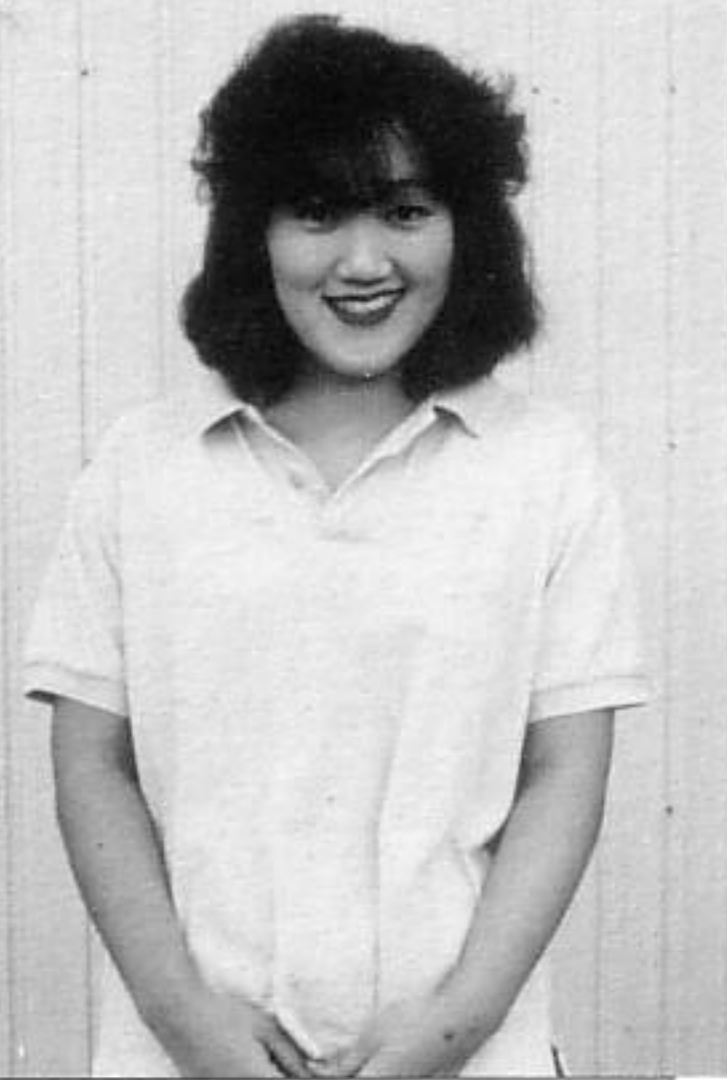
調査票は、十月一日から七

日までの間に、調査員が集め

に伺います。皆様のご協力をお願いいたします。

ガール

畠山 和子さん(21歳)
上通・セブンジャンプ勤務



いま、下通のセブンジャンプに勤めています。同じ年代の若い子が一人もいないことに、少しの淋しさを感じています。けれども、その分、おばさんたちがかわいがってくれるので、仕事も楽しいです。また、年代の離れた人たちと働くというのも、いろんな面で勉強になるので、自分にプラスに

なっていると思います。
ことし成人を迎えましたが、いままでとは少し違った意味で、泣いたり笑ったり、人生ってむずかしいな”と感じることができてきました。でも、他人の意見にまどわされずに、自分らしく生きていきたいなあ……と思っています。
そして、自分を必要としてくれる男性が現われたら、結婚して、「平凡な幸せ」をつくらせていきたいなあ……と思います。
理想の男性像は、過去のことを振り返らずに、いつも前向きに物事を考えられる人……。

次は小野良子さん(新町・21歳)
にバトンタッチ……。

きょうの一じかんめから二じかんめに、かていかしつで、このむさんと、くみこさんといっしょに、なすのみそしるをつくりました。
さいしよに、ふといなすを、はんぶんいきりました。
ごろごろして、なかなかうまくきれませんでした。
「うまくきれないな」

と、おもったけれど、いっしょうけんめい、ひだりてで、なすをおさえてきりました。



きちびつこ
ギヤラソー

作文編



はじめてつくった、
みそしる

おのゆういちくん(八塩小一年)

それから、たべれるくらいにきつたなすを、ボールにいれました。
「おちちやう」
と、おもったけれど、おちなくてほつとしました。
そのあと、おゆをわかし、おみそと、いりこだしをとかしたあと、きつたなすと、あぶらげをいれました。
とつても、おいしいみそしるができて、ぼくは、うれしかったです。



保健婦の 快適タイム

健康管理も仕事のうち

検診結果が、あまり良くななくても、本人には「痛くもかゆくもない」、今日、明日どうなるわけでもない」と放置する人がいます。

各自の成績は、日頃の食事や生活の積み重ねにより、数値に現われてくるのです。今年も、総コレステロールが高く、善玉コレステロールの低い人と、中性脂肪が高く、肥満の人が目立ちました。

善玉は動脈硬化を促進する悪玉を除去する作用があるので、善玉を増やし悪玉を減らすことが血管を丈夫に若々しく保つ秘訣です。

善玉はリノール酸を多く含む植物油や、サバ、イワシなど青背の魚、新鮮な野菜を含む植物繊維を積極的に摂ることに上昇します。また、運動や適度の飲酒(飲み過ぎは中性脂肪を増やすので逆効果)も効果があります。

生活の基盤である収入を得るためには体が資本となります。健診で現在の体の状態をチェックし、それを生活改善に生かしてこそ、健康な明日が約束されるのです。

身近な生活習慣を上手に管理し、人生八十年時代をいつまでも若々しく元気に過ごしたいものです。

(保健婦・伊東志津子)

故紙回収のお礼

去る八月三日、各地区婦人会支部長さん方のご難儀のもとに、町内の皆様のご協力によって故紙回収ができましたことを、厚くお礼申し上げます。

本荘市の古物商のご配慮により、四ツ車二台で、町内七カ所で故紙回収をさせていただきました。

気温三十八度の猛暑の中、午前九時三十分から午後二時まで、運転手さんが汗だくで一生懸命頑張ってください、約六・五tもの故

随想スッポット

私の出番



東由利町連合婦人会会長
小野 貞子さん(蔵新田)

が集まり、その売上金額は二万五千九百六十円となりました。このお金は回収数量ごと各支部に配分し、活動費にさせていただくことに理事会で申し合わせました。

蔵書、新聞紙、段ボール、漫画の本、広告のチラシ、牛乳パックなど、山積みされた故紙を見て、ご協力くださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいでした。

これからも焼き捨てないで、資源のリサイクルにご協力くださいますよう、お願いいたします。

せんせい登場



6 カ月が過ぎて

八塩小学校・杉山美穂子先生

校歌合唱——「清き流れの高瀬川……」。子供たちの歌声が、体育館いっぱい広がって胸が熱くなりました。たった一つ「学校は楽しいところ、休まずに毎日来てください」と子供たちにお願いで、緊張している自分の気持ちを落ち着かせた新任式の日……。

あれからもう、六カ月が過ぎました。学年も名前もわからぬままの身体測定で、担任の先生方に迷惑をかけました。運動会・遠足のころ、やっと名前と顔が一致し、こちらから声をかけられるようになりました。子供たち、父兄、職

員が力を出しあった八塩七夕……まっ暗なグラウンドに花火が映え、かなり美しいものでした。

養護教諭としてのスタートを切る東由利町での一年目。この一年は、私の一生のうちで忘れられないものとなるはずですよ。

五、六年生は、夏休み明けには背も伸び、男らしく、女らしくなりました。私も子供たちに負けないうぐらい、元気にがんばろうと思います。精一杯、ていねいに子供たちに触れていこうと思っています。



きのこ狩り

舞茸というきのこは、それを見つけたときに、喜びのあまり舞い踊るので、この名がついたといわれています。その舞茸も、最近では栽培物が出回っています。

秋の山に、自然のきのこを採りに行くのは楽しいものです。特に、このところのアウトドアレジャー

元気印はお休みします。

ブームで、きのこ採りも盛んです。採ったきのこを、野外で調理して食べるのもいいものです。しかし毒きのこには十分注意しましょう。昨年、きのこによる中毒は、全国で五十三件発生し、二百十七人が発病、四人が死亡しています。

毒きのこの見分け方について、縦に裂けるものは大丈夫とか、色の毒々しいものは危険などといわれます。しかし例外もあります。

きのこ採りは、きのこに詳しい人と一緒に行くか、採ったものを鑑定してもらいましょう。素人判断は危険です。

ふるさとの昔ばなし 7

仕返しされた祭文語り

語り・長谷山専太郎さん(舟木) 文と絵・石渡力造



むかしむかし、一人の祭文語り(旅芸人)が大琴と舟木のさかいへぐりの一本松にさしかかったとき、一匹の狐が昼ねしておった。いたずら好きな祭文語りは、腰のほら貝を狐の耳もとでブオーツと吹きならしたでおの。驚いた狐は、「よくもおどかしたな、今に見ておれ」と、にげていった。

祭文語りは、杉森まで行かねばと急いだが、そのうち急にあたりが暗くなったでおの。「はて、お

かしい日だ。なんぼ秋でもこんなに早く日が暮れるとは……」とつぶやいていると、向うから葬式の行列がやってきたけど。

祭文語りは、いやなものとお出あつてしまったと、側(そば)の大きな木にのぼり、通りすぎるのを待つことにしたでおの。ところが、行列は祭文語りがのぼっている木の下に

穴を掘って死んだ人の入っている棺桶(かんとく)をうめただけ。

行列のみんなは、暗い道を帰って行ってしまう、祭文語りは怖くて下におりられなくなってしまうたどよ。ブルブルふるえながら木にしがみついていると、ギギギイーと変な音がしたかと思うと、棺桶から、ゆうれいはい出してきて、じりっじりっと木をよじのぼり、祭文語りの足もとまで来るでおの。あまりのおそろしさに「た助けてくれえ……」、祭文語りは木の上から下の川に、ドボンとまっさかさまに落じただけ。

すっかりぬれてしまった祭文語り、「やややられてしまった、へぐりの狐めえ」。あたりを見回したらまだ明るい昼中であつた。とつぴんからりん山(やま)しよの実

ふるさとを想う 29

敬老の日…母を想う

秋田市広面小沼古川端一三二一三 若林鈴子さん(54歳・大琴出身)

雨がしとしと降る七月十五日、蔵立寺(蔵)で、ささやかながら父の納骨の供養をしました。

和尚さんの話ですと、戦争の激しかった昭和十二年、戦没者を合同で慰霊し、お寺で遺骨を一時預かったということで、遺骨は当



時のまま大事に保管しておいてくれました。

小さな杉の箱に入った父の遺骨を、姉と弟と私が代る代る撫でてやりました。その時に突然、母が目から涙をこぼし、声にならない声を振り絞り全身を震わせたのです。私は「父さんが帰ってきてよかったね」と母にささやかながらも、父が母を墓の下で優しく抱き寄せる日がいつか来ると思うと、涙が止めどなく流れ、拭くことさえも忘れていました。

二十三歳の若さで三人の子供を抱え、働きづめに働いて私たちを育ててくれた母……。日に日に背中の丸くなる母ですが、体に気をつけ、好きな手芸や裁縫をしながら、いついつまでも長生きしてほしいと願って止まないこの頃です。

67

ハハコグサ

(キク科)

文・写真 小松忠正



ホウコグサともいわれます。春の七草の一つ、オギヨウは、この草のことで昔は食用として、また去痰、せきの薬として用いました。原野、路傍など普通に見られる二年草で、茎は20〜40センチぐらい根元から枝分かれます。葉は細め

の倒披針形で3〜6センチ、やや波形になっていきます。春から夏にかけて黄金色の頭上花を梢上に多数つけます。茎、葉ともに白色の軟かい毛があります。ふっくらした感じが和名を生んだのでしょうか。

10月 (8/1~8/31)

町の三二統計

●人口 () は前月比

・男 2,840人(1)

・女 2,992人(一)

・計 5,832人(1)

●世帯数 1,421戸(△1)

() は1月からの累計

●出生2人(29) ●死亡2人(42)

●転入9人(47) ●転出8人(91)

●火災出動……0件(2)

●救急出動……11件(78)

●交通事故……1件(8)

・死者……0人(0)

・傷者……2人(15)

●飲酒運転……0人(2)

●酒気帯び……1人(3)

10町民カレンダー

今月は体力づくり強調月間

3・インフルエンザ(大琴小)

5・ (永慶保育園)

8・フレッシュ教室(有鄰館・9時30分〜)

11・機能訓練教室(有鄰館10時〜)

12・インフルエンザ(高瀬小)

秋の行政相談調問

10/14~10/20

17・インフルエンザ(東中)

19・ (八塩小・みどり保育園)

21・ふるさとウォーク(予定)

24・乳児健康診断(有鄰館13時〜)

26・3歳児健診(有鄰館13時〜)

13日(土)、27日(土)は役場が休みです。

行政相談所開設のお知らせ

10/16(火)・蔵立寺(10〜15時)

10/17(水)・須郷田会館(10〜12時)

10/18(木)・松柴会館(同)

10/19(金)・役場(10〜15時)

10/20(土)・法内克雪管理センター(10〜12時)

10/21(日)・黒沢会館(同)

10/22(月)・宿会館(同)

町の行政相談委員は阿部寅静さん(蔵・六六九一三二一四)です。

善意

町社会福祉協議会に「還暦を祝う会」(石渡力造代表)から一万円が届けられました。ありがとうございます。

戸籍だより

(8/21〜9/20届出・敬称略)

●お誕生おめでとう

%佐藤 由美(賢一・長女)十二年前

●ご結婚おめでとう

%小野 孝悦 新町

%太田 幸子 宇戸坂

●ごめい福をお祈りいたします

%高橋 盛男 70・ヨシ・夫(杉森)

%阿曾 イヨ(83・肇・母)宇戸坂

%小松トキエ(80・秀悦・母)湯出野

%佐藤マサエ(74・千代蔵・養母)湯出野

%小松キヨミ(89・久徳・母)宇戸坂

%佐々木申二(81・眞一・父)舟打場

マイ スケッチ ストライク

梅津 仁さん(大琴)



8月17日、第32回町社会人野球大会の決勝、「東由利メッツ」対「宿」戦。

主審大極富男さん(新町出身・神奈川県在住)の名審判ぶりが光りました。

▼「ふるさとを想う」に、先月三人の方から投稿をいただきました。ここ何号か投稿がなく、こちらから電話で依頼させていたで、感謝しています。ありがとうございました。順次に掲載させていただきます▼反面、「元気印」は、また今回もお休みです。現役でご活躍中の七十歳前後の方をご紹介しますコーナーです。

編集室から

自薦または他薦をお願いします▼九月十九〜二十日にかけて台風十九号が上陸し、全国各地に大きな被害をもたらしました。全国で三十八人もの死者・不明者を出したこの台風、幸い本町では大きな被害を受けませんでした。進路が一步ずれれば、どうなっていたことか……。今月の紙面に、悲惨な写真を出さずに済んだことにホッとしています。